

もとまち  
**元町**

6

江戸末期、大友亀太郎がこの地域でまちづくりを始め、「元村」と名付けました。明治時代に「札幌村」となり、その後、村の一部が札幌区（現・札幌市）に編入され「元村町」となりました。これが「元町」の名前の起源です。



明治時代の大友堀  
〔北海道大学附属図書館北方資料室所蔵〕

さかえにし さかえひがし  
**栄西・栄東**

9

札幌村の地域で、「烈々布」と呼ばれていたところ。昭和30年、札幌市との合併の時に、この地域の発展と繁栄を期待する意味で、「栄える」ことを願い「栄町」と名付けられ、その後、東8丁目篠路通を境に「栄西」「栄東」となりました。



参考文献  
「新札幌市史」(札幌市教育委員会)  
「さっぽろ文庫1 札幌地名考」  
(札幌市教育委員会)  
「東区今昔3 東区拓殖史」  
(札幌村郷土記念館・東区役所)

ほくえい  
**北栄**

8

名前の由来は不明なのですが、札幌村の「中通」という地域（現在の東8丁目篠路通界隈）に「北栄」という集落があったという記録が残っており、昭和20年ころには「北栄」という呼び名が使われていたようです。

ほっこう  
**北光**

10

由来は定かではありませんが、昔の史料に「北光」という名前を見つけたことができます。その一つが大正時代に開校した「北光小学校」です。「北斗七星のように永久に光り栄える理想の学園に」という願いを込め「北光」と名付けられたそうです。

なえぼ  
**苗穂**

7

アイヌ語で「小さな川」を意味する「ナイ・ポ」が語源。明治3年に山形と新潟からの移民の手により村ができ、その年が「庚午」の年であったため「庚午一の村」となりました。その後、「ナイ・ポ」に苗穂という漢字を当て「苗穂村」と改められました。



札幌麦酒会社の製麦所  
〔サッポロビール博物館所蔵〕

てっとう  
**鉄東**

11

区内で最も早くから市街地ができた地域。昔は鉄道の北側ということで「鉄北」と呼ばれ、昭和初めに、石狩街道の東側（現地域）が「鉄北東」と名付けられ、それが縮まり「鉄東」になったと言われています。

なるほど地名講座 外編

「札幌」の語源は？

アイヌ語の「サッ・ポロ」は、「サリ・ポロ・ペツ」「サッ・ポロ・ペツ」から出たもので、川を起源とするという説がありますが、アイヌ語の地名に由来するのは確かなようです。

この「サッポロ」とは「乾く・大きい」という意味とされています。

福岡から移住してきた人が多い地域なので「福移」や、豊平川に渡り鳥の雁が来るから「雁来」（一説）など、ほかの地名にも由来があるよね。調べてみるとおもしろいかも！

